

# 駿府城跡天守台発掘調査現場見学会 平成29年2月

## 1 発掘調査の目的

駿府城の本丸、二ノ丸に当たる範囲は、現在駿府城公園になっています。公園の再整備事業の一環として、駿府城再建に向けて、天守台の正確な位置や大きさ、構造、残存状況等を確認するため、平成28年度から平成31年度まで4年をかけて天守台全体を発掘調査する計画です。1年目の今年度は、天守台西側一辺を調査しました。

## 2 発掘調査でわかったこと

天守台は、江戸時代に大きく2回、地震による崩落被害と修復が行われた後、明治29年の陸軍歩兵連隊設置の際に取り壊され、その土砂で本丸堀が埋め立てられました。地下には、天守台の石垣がどの程度残っているのかわかっていませんでしたが、8月からの調査により以下のことが新たに判明しました。

### (1) 前回(10/22)の現場見学会までの成果

#### ①最大で約5.6m残っていた石垣

最も残っている所で現地表から約1m下、約5.6mの高さが残っていました。上部が取り壊される前の石垣は、さらに高く、約19mあったと推定されています。

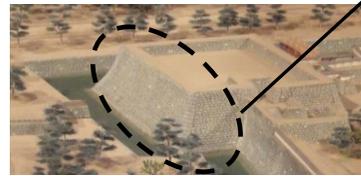
#### ②天守台西辺は南北約68m

確認された範囲で約67m、調査区外に延びている部分を合わせると約68mに達することが分かりました。明治の天守台の絵図(「駿府城御本丸御天主台跡之図」静岡県立中央図書館蔵)によれば、石垣の下端で南北幅は33間4尺(約66m)あったと記録されており、絵図よりも約2m長いことが分かりました。また、絵図の記録は実際と大きくは変わらない、信ぴょう性のある資料であることが確かめられました。

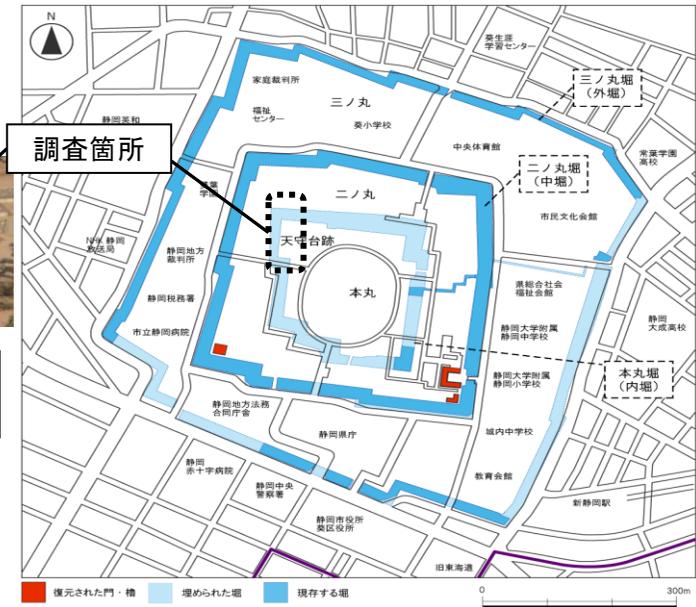
### (2) 10月以降にわかったこと

#### ①石垣10か所に刻印を確認

天守台西辺の石垣全体の観察と記録を行ったところ、現存する石垣中に10の刻印(石垣普請工事に参加した大名が目印のために刻んだもの)を確認しました。堀中に崩されていた石にも複数の刻印が見られることから、本来はもっと多くの刻印があったといえます。



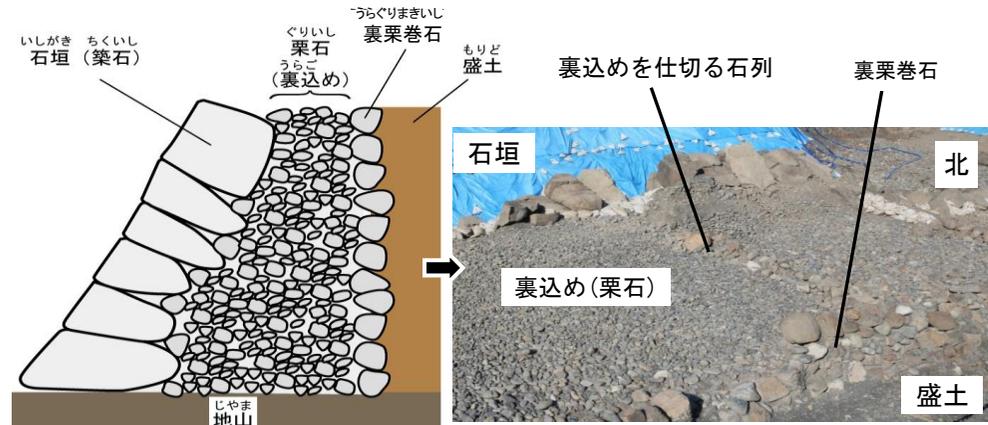
駿府城模型の天守台  
東御門展示



### ②天守台の構造が判明

一番外側に石垣の積石があり、その内側は裏込(うらごめ)と言い、栗石(ぐりいし。拳大の川原石)を大量に詰めた層があります。その内側は、直径20~40cm程度の石を使用した裏栗巻石(うらぐりまきいし)をもち、さらにその内側は盛土層になっています。(構造模式図参照)  
なお、今回の調査区では、裏栗巻石と同じような大きさの石を、裏栗巻石ラインと直交するように並べて、栗石層を区画している様子が観察できました。栗石を詰める作業における単位であったとも考えられます。

#### ↓天守台石垣の構造模式図



### ③何度も積み直されていた石垣

石垣は、石の加工の違い、石の並ぶ目地の違いから、積んだ時期が違うことが分かります。江戸時代に大地震が2回あり、石垣が崩れて修復したとの記録があります。どの部分がいつの修復のものか特定することはできませんが、かつての修復の履歴を裏づけるものといえます（下図参照）。

↓ 天守台西辺



← (A) 点線は積み方の境界。石の目地が異なり、右上側を後で積んでいる。



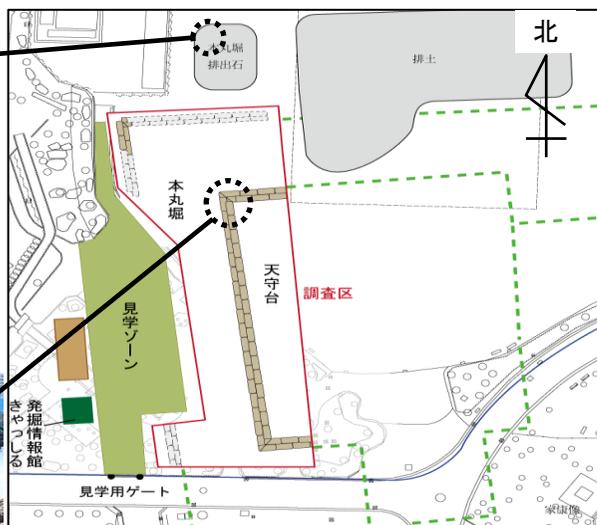
← (B) 点線は積み方の境界。右側は、やや小さく四角に加工した石を積んでいる

### 3 今回の特別公開箇所



← 堀から発見された天守台隅石。幅1.1m×長さ1.9mに達し、この調査で最大級の石。(推定約4.5t)

→ 2/14 (火) に確認した天守台北西角の根石（一番下に積む礎石。北



### 4 今後の予定

今年度の発掘調査は2月で終了し、来年度は5月頃から再開します。来年度は調査区を拡張して天守台北辺と南辺を調査する予定です。

#### 一般向け体験発掘

平成29年6月～10月の第2・4土日に開催予定！

詳細は4月以降にHP等でお知らせします。

夏休み期間中も体験できますので、お子さんの自由研究やご友人・ご家族でのレジャーなどにぜひご活用ください！